

## 第 2 章 計画地及びその周辺地域の 概況並びに環境の特性



## 第2章 計画地及びその周辺地域の概況並びに環境の特性

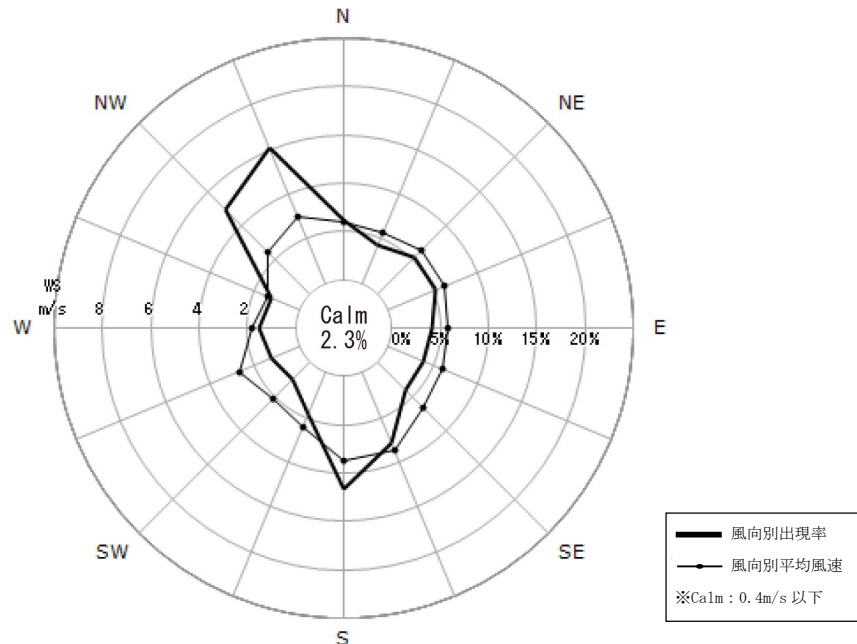
### 2.1 計画地及びその周辺地域の概要

#### 2.1.1 気象の状況

計画地に近い気象観測地点は、風向・風速及び気温が計画地の北北西約2.1kmの一般環境大気測定局幸測定局であり、雨量が計画地の北東約0.9kmの川崎市役所第三庁舎観測局である(図2.1.1-4参照)。

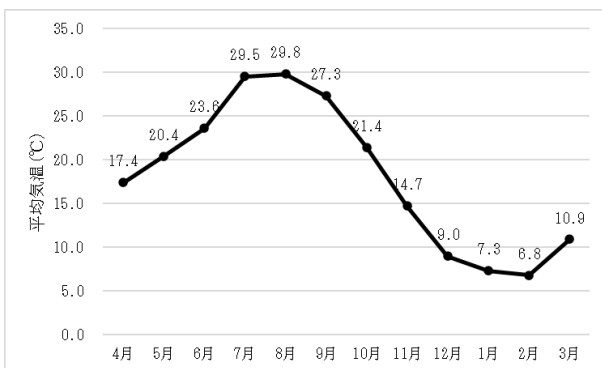
幸測定局における令和6年度の風配図は、図2.1.1-1に、気温の月平均値は、図2.1.1-2に示すとおりである。また、川崎市役所南庁舎観測局における令和6年度の月別雨量は、図2.1.1-3に示すとおりである。

幸測定局における年間最多風向は北北西(15.3%)、次いで北西(12.3%)、南(11.7%)であった。また、年間平均風速は2.6m/sであり、月別平均気温は、最低で2月の6.8℃、最高で8月の29.8℃であった。また、川崎市役所南庁舎観測局における年間雨量は1,229.5mmであった。



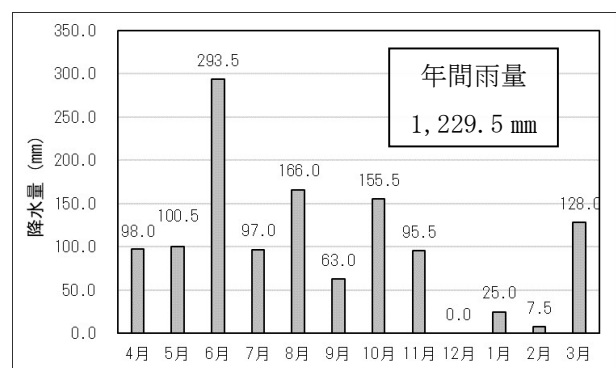
資料：「川崎市大気データ 確定値のダウンロード」(令和7年10月閲覧 川崎市ホームページ)

図2.1.1-1 風配図(令和6年度：幸測定局)



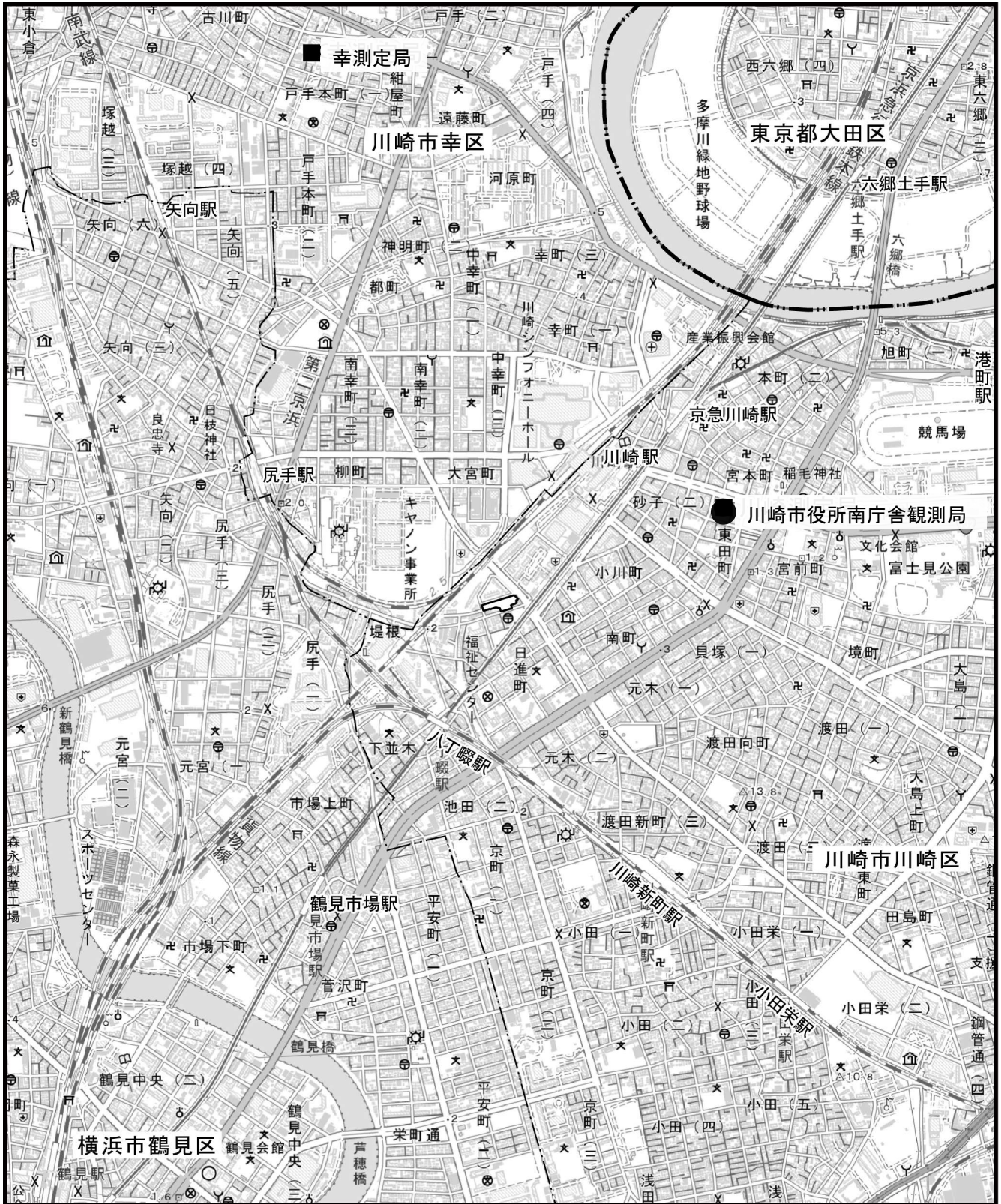
資料：「川崎市大気データ 確定値のダウンロード」(令和7年10月閲覧 川崎市ホームページ)

図2.1.1-2 月別平均気温  
(令和6年度：幸測定局)









資料：「帳票雨量 雨量年報」(令和7年10月閲覧 川崎市防災気象情報ホームページ)

図2.1.1-3 月別雨量  
(令和6年度：川崎市役所南庁舎観測局)



凡例

-  計画地
-  県都区界
-  市界
-  区界
-  一般環境大気測定局
-  雨量観測地点



Scale 1:20,000



図 2.1.1-4 気象の観測地点位置

## 2.1.2 地象の状況

川崎市の地形は、西部の丘陵地域、その東に広がる台地地域、多摩川右岸沿いと臨海部の沖積平野の3地域からなっている。計画地は沖積平野地域に位置し、計画地の標高はT.P. +1.5m程度の平坦地である。

「地理院地図 地形分類（自然地形）」（令和7年10月閲覧 国土地理院ホームページ）によると、計画地は、旧河道に属し、計画地周辺は、主に氾濫平野、砂州・砂丘及び自然堤防等となっている。「土地分類基本調査図（表層地質図）横浜・東京西南部・東京東南部・木更津」（平成3年3月 神奈川県）によると、計画地及び計画地周辺は、沖積層となっている。沖積層は、主に完新世以降に堆積した砂、シルト、粘土等から構成され、一般に固結度が低く、地下水位が高いことから、軟弱な地盤特性を有することが知られている。計画地周辺の地質調査地点は図2.1.2-1に、地質柱状図は図2.1.2-2に示すとおりである。

また、「川崎市地震被害想定報告書」（平成25年3月 川崎市）によると川崎区及び幸区は急傾斜地の危険度が低く、地震時の危険度ランクが最も高いランクA（相対的に危険度が高い）の箇所は、想定地震「平成24年川崎市直下の地震」及び「元禄型関東地震」では確認されていない。

計画地周辺には、急傾斜地崩壊危険区域等は存在していない。

## 2.1.3 水象の状況

計画地周辺の水域の状況は、表2.1.3-1及び図2.1.3-1に示すとおりである。

計画地の北東側を多摩川水系の多摩川が北東から東へ、西側を鶴見川水系の鶴見川が北東から南西へ流れている。計画地付近の多摩川及び鶴見川は一級河川の区間である。

計画地周辺地域の地下水位の状況については、「令和5年度水環境データ集」（令和7年4月川崎市）において、計画地の北東側約1.3kmに位置する六郷観測所で地下水位が測定されており、令和5年の年平均地下水位は、地表から-1.55m（T.P. +1.21m）となっている。なお、計画地内に井戸は設置されていない。

「平成24年度水質年報」（平成26年1月 川崎市）及び「平成25年度水質年報」（平成27年3月 川崎市）によると、平成24年度の多摩川水系及び平成25年度の鶴見川水系の湧水地調査において、計画地周辺に湧水地は確認されていない。

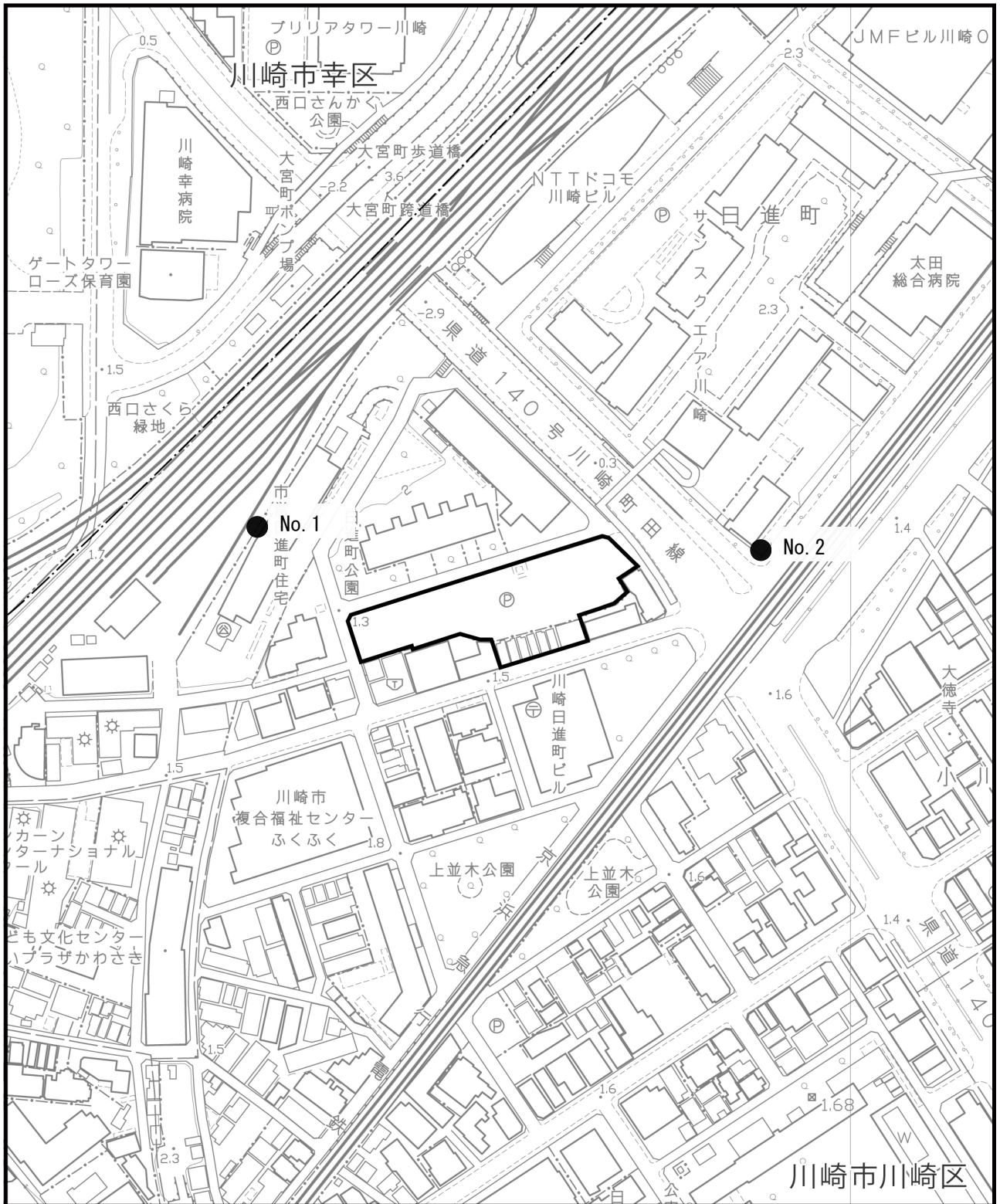
「川崎市洪水ハザードマップ（川崎区版）」（令和4年10月 川崎市）によると、計画地周辺地域は、多摩川水系及び鶴見川水系の洪水浸水想定区域（多摩川水系では、「家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）」）となっている。

表 2.1.3-1 河川の状況




水系	河川名称	流路延長(m)		
		一級河川区間	準用河川区間	普通河川区間
多摩川水系	多摩川	29,800	—	—
鶴見川水系	鶴見川	30,500	—	—

資料: 「川崎市河川図」（令和2年3月 川崎市建設緑政局総務部企画課）

「横浜市を流れる河川一覧」（令和7年10月閲覧 横浜市ホームページ）



凡例

-  計画地
-  区界
-  地質調査地点



Scale 1:2,500

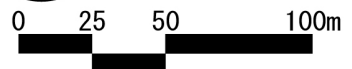


図 2.1.2-1 地質調査地点

資料：「ガイドマップかわさき 地質図集（ボーリングデータ）」  
 (令和7年10月閲覧 川崎市ホームページ)



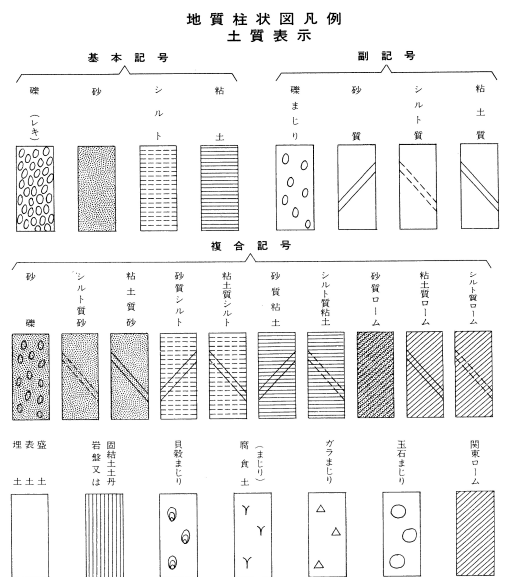
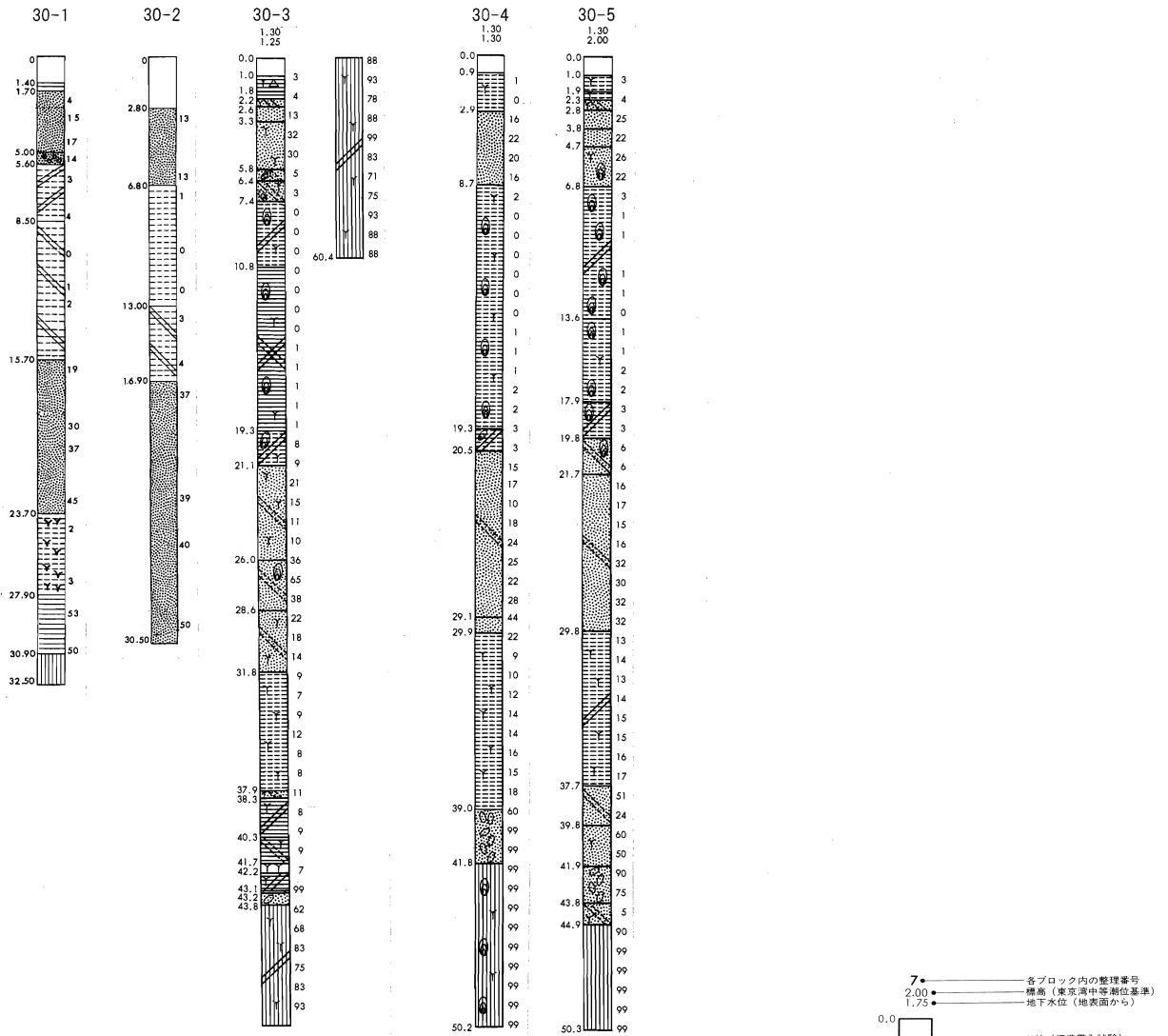


図 2.1.2-2(2) 地質柱状図 (No. 2)



凡例

- 計画地
- 河川
- 県都界
- 地下水位観測所
- 市界
- 区界



Scale 1:20,000



図 2.1.3-1 水域の状況

資料：「川崎市河川図」（令和 2 年 3 月 川崎市建設緑政局総務部企画課）  
「令和 5 年度 水環境データ集」（令和 7 年 4 月 川崎市）

#### 2.1.4 植物、動物の状況

計画地の現況は、駐車場等であり、まとまった樹林帯はみられない。

計画地周辺は、沖積平野地域に位置している商業地である。

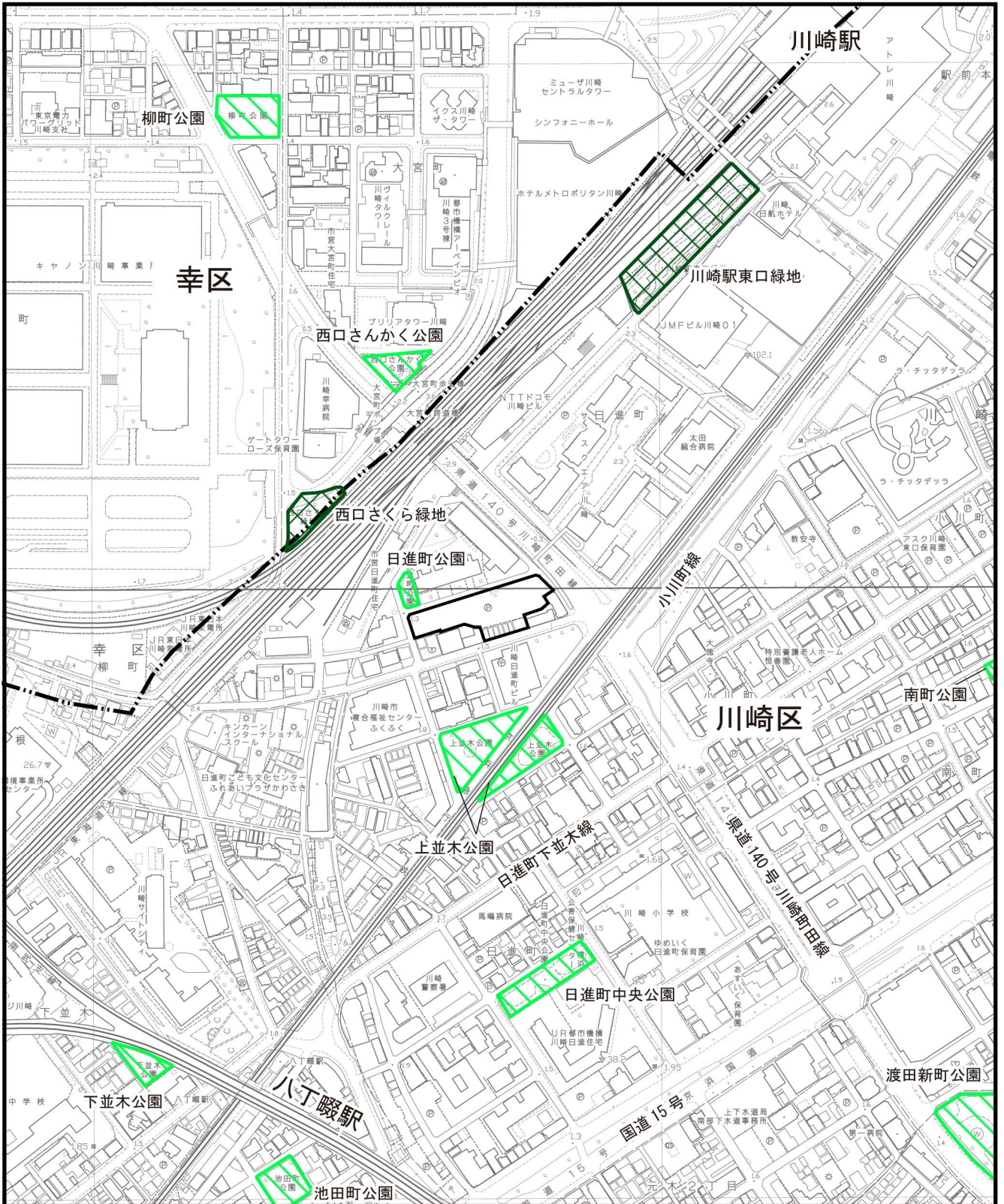
「第6回・第7回自然環境保全基礎調査 植生調査」（令和7年10月閲覧 環境省自然環境局生物多様性センター）の現存植生図によると、計画地周辺は市街地が広がっている。

また、計画地周辺の公園等分布図は、図2.1.4-1に示すとおりであり、計画地の北側に隣接して日進町公園、南側約90mに上並木公園、北西側約180mに西口さくら緑地等の公園・緑地が見られる。

川崎市は「生物多様性かわさき戦略～人と生き物 つながりプラン～」(令和4年3月改定 川崎市)において、地域特性やエリアの特徴を踏まえて、12のエリアを設定している。計画地周辺は、「低地の市街地生態系エリア」に区分されており、自然的環境の分布は少なく、公園等が生き物の生息・生育の拠点となり、街路樹等がそれらをつないでいるとされている。

また、計画地周辺は、川崎駅周辺地区緑化推進重点地区に位置しており、みどりが人と人のつながる場や機会をつくり、川崎の多様性や歴史・未来を感じられるまちづくりを進めるとされている。

「ガイドマップかわさき かわさき生き物マップ」（令和7年10月閲覧 川崎市ホームページ）によると、計画地周辺では、トカゲ類及びタヌキが確認されている。



凡例

- |   |     |   |    |
|---|-----|---|----|
|  | 計画地 |  | 公園 |
|  | 区界  |  | 緑地 |



Scale 1:5,000



図 2.1.4-1 緑の公園等分布図

資料：「川崎区マップ」(令和7年3月 川崎市川崎区役所地域振興課)  
「さいわいガイドマップ」(令和7年3月 川崎市幸区役所地域振興課)